

資料－1 用語集

1.1.河川編

(1)河床勾配(かしょうこうばい)

川の流れる方向の川底の傾きのこと。

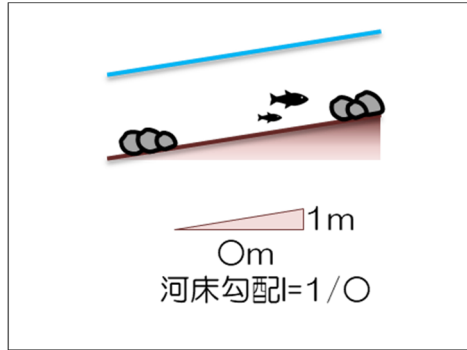


図 1-1 河床勾配 イメージ図

(2)河川法(かせんほう)

日本で河川法が初めて制定されたのは、明治 29 年です。

その後、幾度か改正され現在の河川法に至っています。特に、昭和 39 年と平成 9 年に大きく改定され、維持管理については、平成 25 年に改正されました。

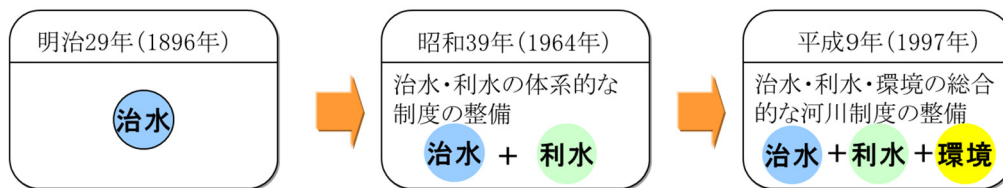
昭和 39 年の改正では、治水に加え利水に関する制度が整備されました。

平成 9 年の改正では、河川の役割に「河川環境の整備と保全」が加えられました。

また、地域の意向を反映して計画する河川整備計画の仕組みも導入されました。

維持管理に関しては、河川管理施設等の維持・修繕の基準が創設されました。

■河川法改正の流れ



(3) 川表、川裏(かわおもて、かわうら)

堤防の水が流れている方が川表、住宅等がある方が川裏です。

(4) 計画高水・HWL(けいかくたかみず・はいうおーたーれべる)

計画高水流量は、基本高水流量から洪水調節量を差し引いた川を流れる流量のことです。計画高水位(HWL)は、計画高水流量が流下するときの水位です。この水位は、堤防や護岸などの設計の基本となる水位です。

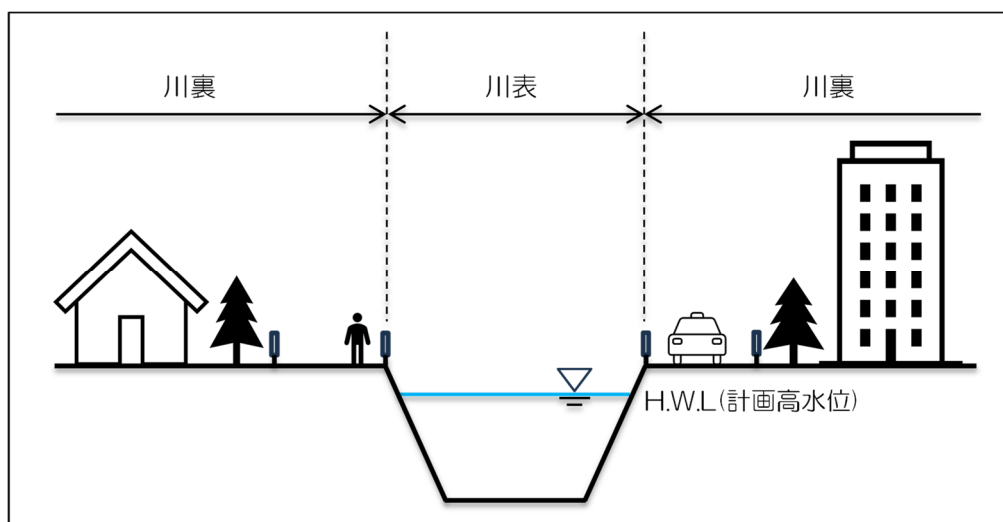


図 1-2 川表、川裏、計画高水・HWL イメージ図

(5) 権限移譲河川(けんげんいじょうかせん)

河川法第9条に基づき一級河川、第10条に基づき二級河川の管理権限が政令指定都市の長に移譲された河川のことです。

(6) 護岸(ごがん)

堤防または河岸を保護するものです。

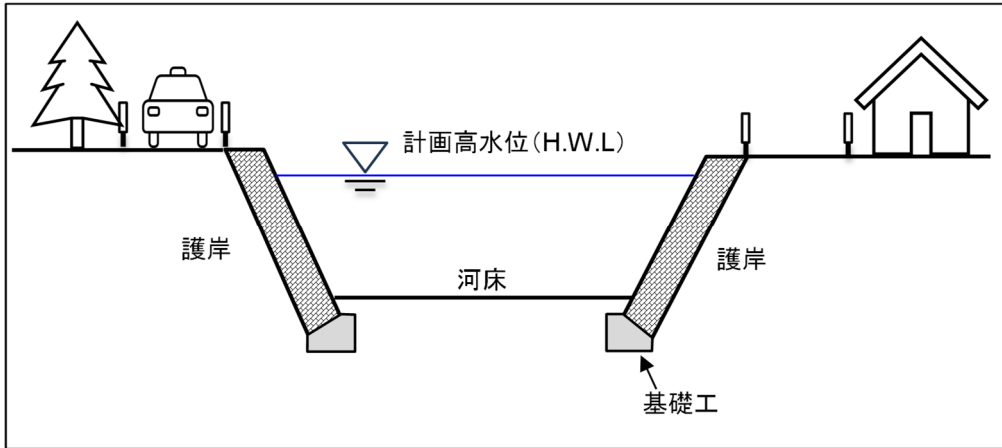


図 1-3 護岸(一般) イメージ図

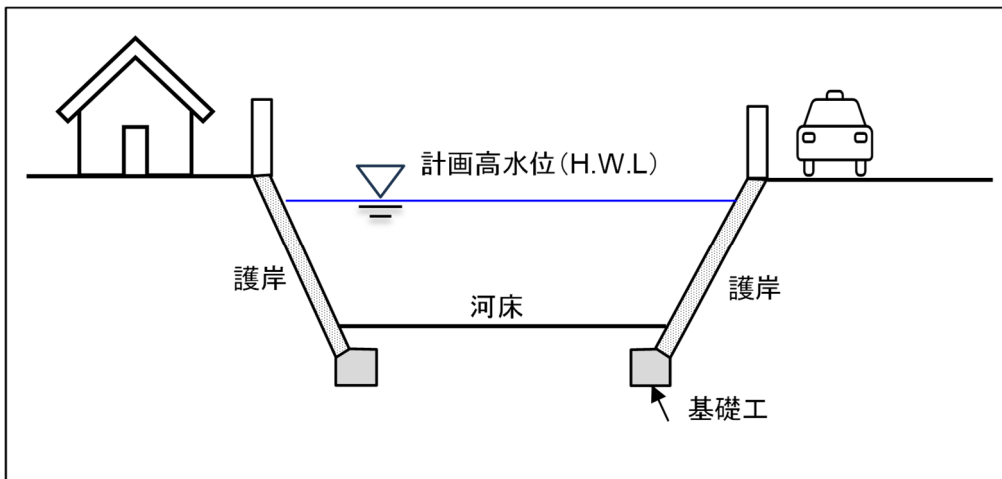


図 1-4 胸壁構造の特殊堤 イメージ図

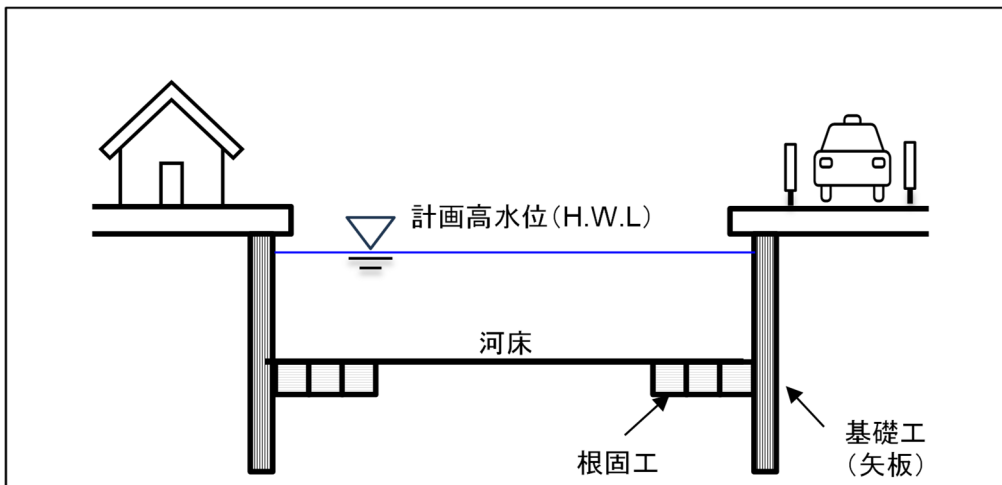


図 1-5 矢板護岸 イメージ図

(7)洪水、出水(こうずい、しゅっすい)

台風や前線によって流域に大雨が降ると、その水が川に流れ込み、川の流量が急激に増水します。このような現象を洪水または出水といいます。

(8)出水期(しゅっすいき)

大雨や台風等、洪水が起きやすい季節(6月~10月)のことです。

(9)浚渫(しゅんせつ)

河道の土砂等を取り除くことです。

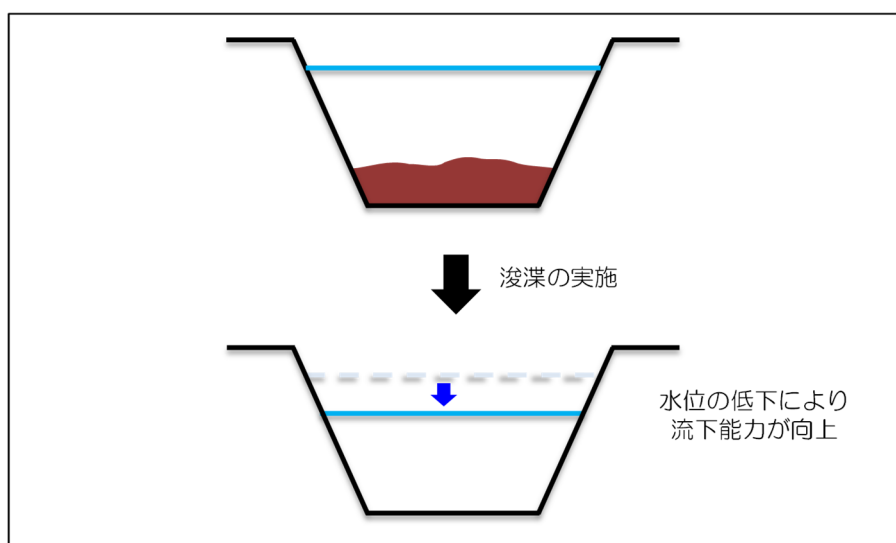


図 1-6 浚渫 イメージ図

(10)水防活動(すいぼうかつどう)

水防活動とは大雨により河川が増水した場合に、巡視等により災害の発生を警戒し被害の発生を未然に防ぎ、災害発生時は被害を最小限に抑える活動です。

水防に関しては、「水防法」で国、県、市及び市民の役割が決められており、市は区域内における水防を十分に果たす責任があるとされています。

(11)多自然川づくり(たしぜんかわづくり)

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことです。

(12)床止め(とこどめ)

河床の洗掘を防ぎ、河床勾配を安定させるために、河川を横断して設けられる施設です。床止めに落差がある場合「落差工」、落差がないまたは極めて小さい場合「帯工」といいます。

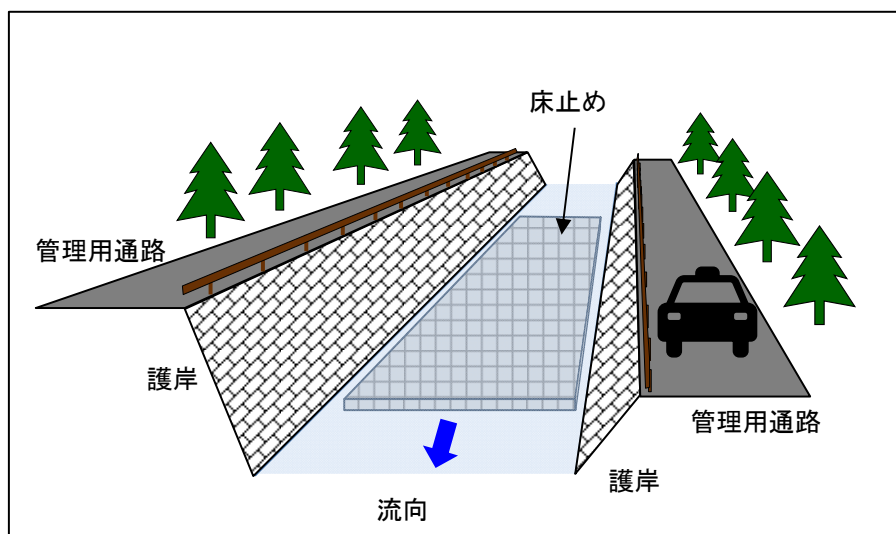


図 1-7 床止め イメージ図

(13)根固工(ねがためこう)

洪水時に河床の洗掘が著しい箇所において、護岸基礎工前面の河床の洗掘を防止するために設ける施設です。

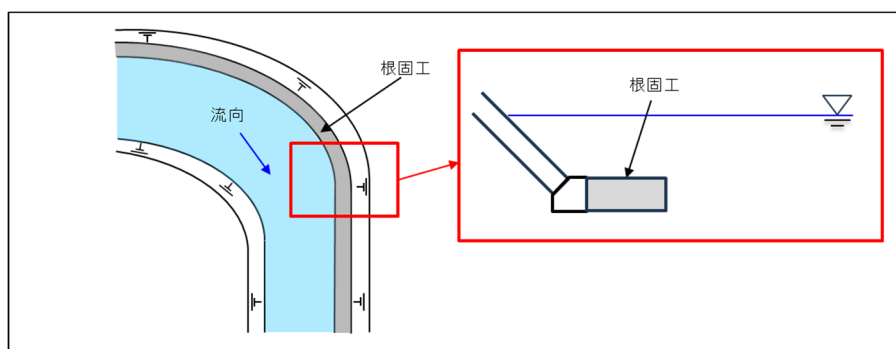


図 1-8 根固工 イメージ図

(14) 滞筋(みおすじ)

平常時に水が流れている水みちのことです。

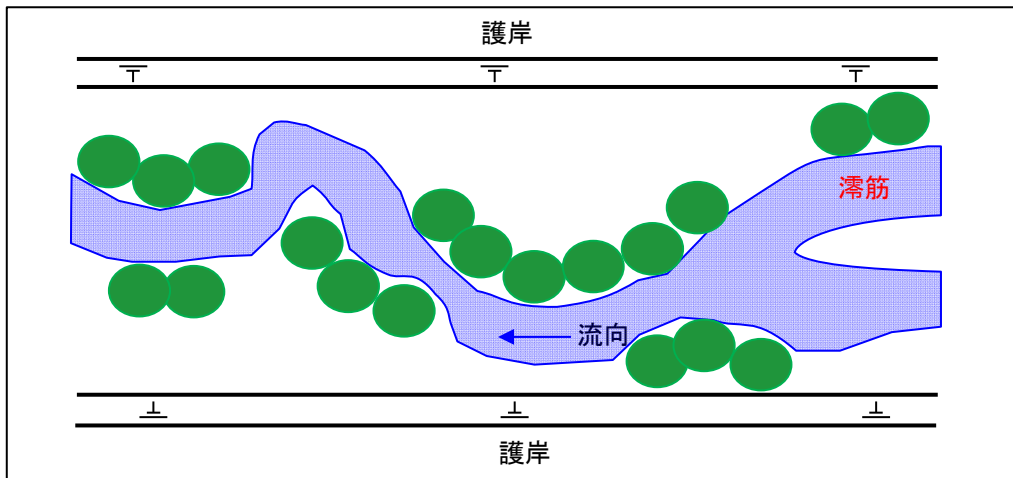


図 1-9 滞筋 イメージ図

(15) 予防保全型の維持管理(よぼうほぜんがたのいじかんり)

インフラが致命的なダメージを受ける前に、更新時期の平準化と総事業費の削減を図りながら、損傷や劣化が進行する前に適切な対策を行う管理手法

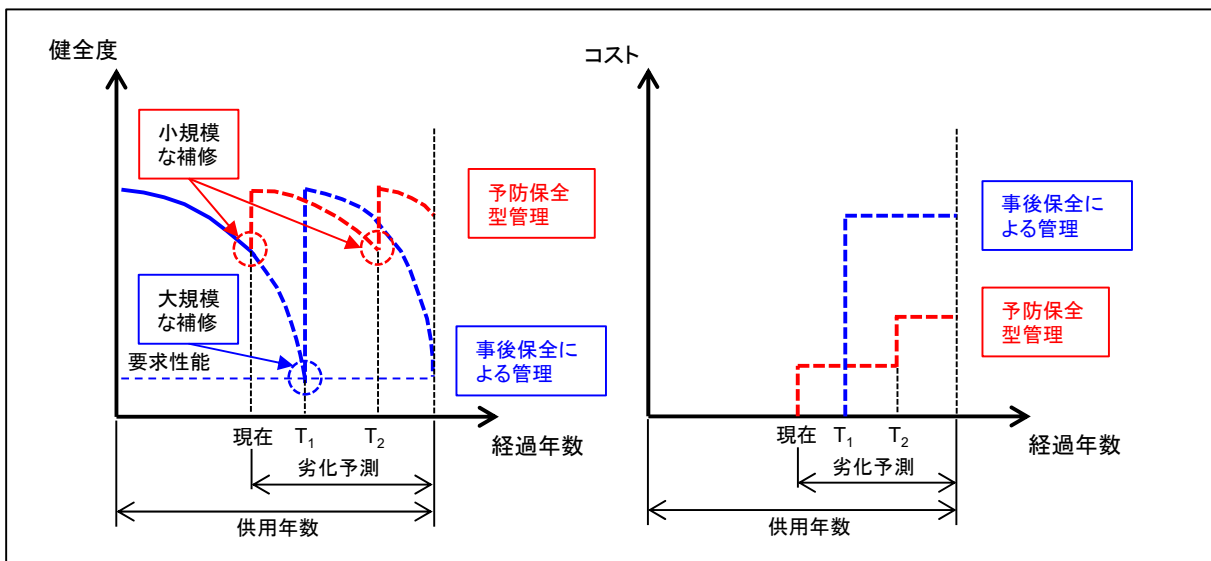


図 1-10 予防保全 イメージ図

(16) 流量(リゅうりょう)

川を流れる水の量のことです。

(17) 流下能力(りゅうかのうりょく)

川が流すことのできる洪水の規模のことで流量で表現します。現況の流下能力を、現況流下能力といいます。

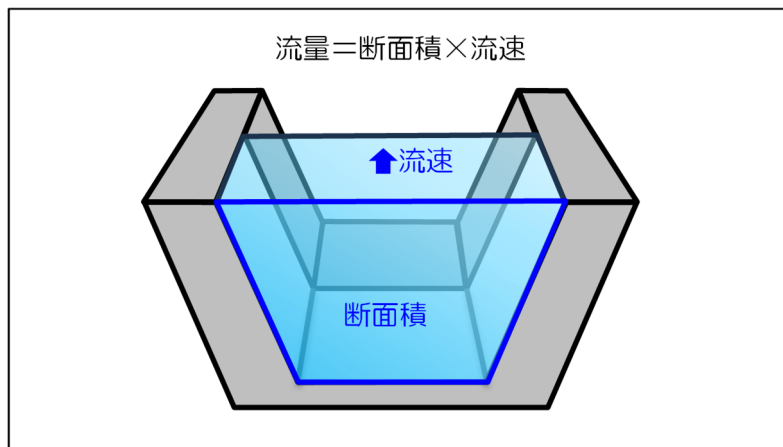


図 1-11 流量、流下能力 イメージ図

1.2.水路編

(1)法定外公共物(ほうていがうこうきょうぶつ)

道路、水路等の公共物の内、道路法、河川法などの適用を受けていない土地

1.3.雨水流出抑制施設編

(1)オリフィス(おりふいす)

雨水流出抑制施設に流入した雨水を調整するための孔のことです。その直径は水理計算により算定されます。オリフィスの設置には、ステンレス製板等が使用されます。

(2)スクリーン(すくりん)

オリフィスの閉塞を防ぐため、手前に設けられたステンレス製の箱型格子状施設のことです。

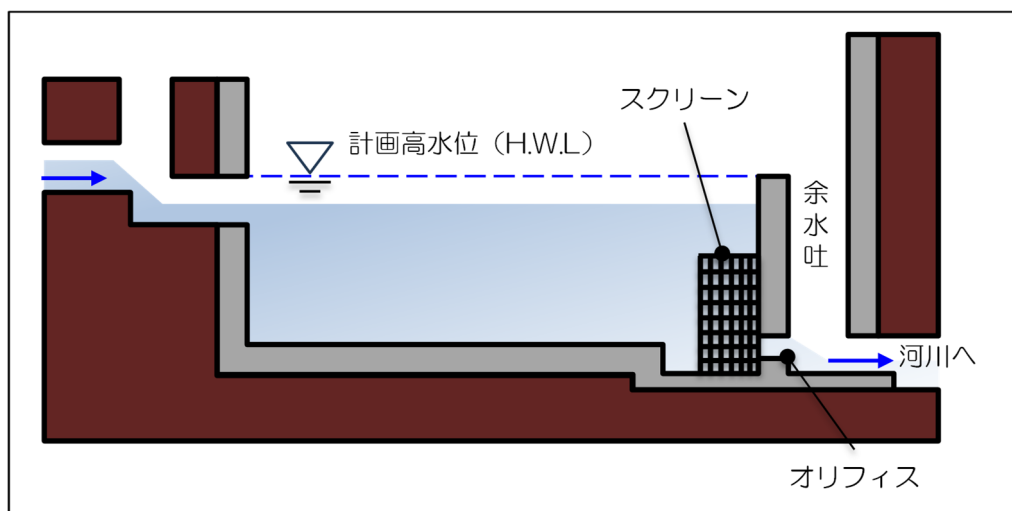


図 1-12 オリフィス・スクリーン イメージ図